

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日

承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30

例会場 勝山市市民交流センター

〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地

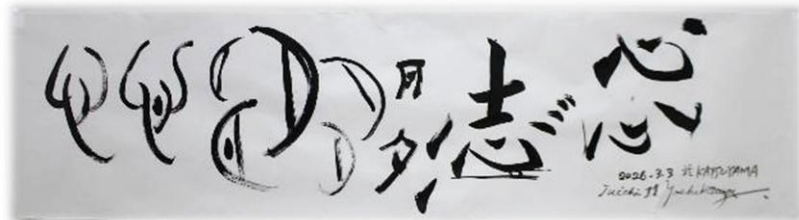
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760

URL: <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>

Email: katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子

編集発行・文責 公共イメージ委員会



会長メッセージ

～ 縁（えにし）を継なく ～

第3124回 例会 (5月19日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



本日は、先週開催されました炉辺会議について、そして17日に開催された新旧会長幹事会について、お話しさせていただきます。

先週は3班に分かれ、炉辺会議が開催されました。

それぞれの班で、様々な意見や考えが出されたと聞き及んでおります。後ほど各班から発表があるとのことで、私自身も大変楽しみにしております。

炉辺会議は、例会とはまた違った雰囲気の中で、会員同士が率直に語り合える大切な場であります。

クラブの未来や地域のこと、ロータリー活動への思いなど、自由に意見交換できることは、クラブの活性化にも繋がるものと思っております。

今回出された意見や提案が、今後の勝山ロータリークラブの活動に活かされることを期待しております。

また、17日の日曜日には、三国にて新旧会長幹事会が開催されました。

各クラブから様々な報告や課題提起がありましたが、中でも大きな話題となったのが、福井西ロータリークラブから提案のありました「県下一斉ポリオDAY」についてであります。

10月25日日曜日に、県内ロータリークラブが一斉に事業を展開する形で開催されることが決議されました。

会議の中では、「以前にも同様の企画があった」との実績報告もあり、勝山ロータリークラブとしても参加していく方向となっております。

現会員の皆様の中にも、過去に経験された方がおられるかと思います。

県内のロータリアンが同じ日に、それぞれの地域で奉仕活動を行うということは、大変意義深いことであり、ロータリーの存在意義を地域に発信する良い機会にもなると思います。

ぜひ計画的に、そして積極的に取り組んでまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

そして本日の夜には、現新理事会も開催されます。いよいよ次年度に向けた動きが本格的に始まってまいります。今年度も残りわずかとなってきましたが、円滑なクラブ運営のためにも、速やかな引き継ぎと情報共有をお願い申し上げます。

残された任期をしっかりと務めながら、次年度へ良い形でバトンを渡せるよう、最後まで皆様のご協力をお願い申し上げます。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○6月14日(日)は「恐竜クロカンマラソン」です。例年通りサイン会のボランティアがありますので、ご予定をいれておいてください。

○本日19時より、現新理事役員会ですのご出席よろしくをお願いします。

●委員会報告

●親睦ロータリー家族委員会

幅田 浩二

・来週の新緑例会は18時に勝山市役所を出発しますのでよろしくをお願いします。

・最終例会の出欠がまだの方はお願いします。

●社会奉仕委員会

幅田 浩司

6月2日(火)は6:00～長山ロータリー公園清掃例会ですのご参加よろしくをお願いします。

●出席報告

山内 智子

5月12日	欠席5名	75%
5月19日	欠席2名	90%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

財団寄付お願いします

福井RC 野村直之様

古希を迎えて

上山 弥一

届出欠席

幅田浩司

地区財団資金推進委員会 野村直之様(福井RC)



本日はロータリー財団への寄付につきまして、自ら進んで寄付をしたいと思うような奉仕活動ができないかという事について次年度の役員の皆様とお話しさせていただきたくお伺いいたしました。



米山功労者 第2回マルチプル

本 日 プログラム	新緑例会	6月2日 プログラム	長山ロータリー 公園清掃	6月9日 プログラム	クラブ協議会	6月16日 プログラム	クラブ協議会
--------------	------	---------------	-----------------	---------------	--------	----------------	--------

会員卓話

会長エレクトラーニングセミナーに参加して

和田 達也 会長エレクト



はじめに、2026-2027年度の国際ロータリーの方針についてご説明いたします。

次年度の国際ロータリー会長は、ナイジェリアご出身のオンラインカ・ハキーム・ババロラ氏です。ババロラ氏は、石油インフラ供給会社などを経営されており、大変お若いながらもエネルギーな方でございます。

彼が掲げるメッセージは「持続可能なインパクトを生み出そう」というものです。このメッセージは、4つの行動計画に基づいています。

インパクトをもたらす: 重点分野に沿って、最大のインパクトをもたらすプロジェクトにリソースを集中させる。

基盤を広げる: あらゆる活動において、多様性、公平さ、インクルージョンを実践する。

関わりを促す: 会員であるか否かを問わず、参加者重視の考え方を促す。

適応する: 組織の俊敏性と多様性を高めるため、運営の合理化を目指す。

これらの国際的な方針を受け、我々の地区、第2650地区の次年度ガバナーである福井ロータリークラブの平野様より、地区としての基本方針が発表されました。「新しい扉を開く」です。

平野ガバナーは、ロータリーが持続していくために、改革というよりも、不要なものはなくし、成長すべき点は伸ばしていくという、合理化を図る考え方を示されました。

特に重要課題として挙げられたのは、以下の点です。
地区活動の充実と人材育成: 地区の活動への参加を促し、次世代のリーダーを育成する。

会員増強と退会防止: 会員を増やすことはもちろん重要ですが、それ以上に「会員が辞めないロータリークラブ」を作ってほしいとの強いメッセージがございました。

地区の健全化と小規模クラブの支援: 私たちのような小規模クラブを大切に考え、負担を軽減し、活動に集中できる環境を整えていく方針が示されました。

平野ガバナーご自身、様々なクラブを訪問された経験から、会員一人ひとりに寄り添ったクラブ活動の重要性を痛感されたとのことでした。

私自身も、来年度の会長として、何か新しいことを性に始めるというよりは、これまで続けてきた活動を大切にしつつ、皆さまで一緒にゼロからクラブのあり方を見つめ直し、合理化できる点を探る一年にしたいと考えております。皆さまのご意見を伺いながら、柔軟にクラブ運営を進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

炉辺会議 報告

【第1班 報告】

第1班は、5名の会員で会合を持ちました。和やかな雰囲気の中、活発な意見交換が行われ、キーワードは「共有」であると結論付けられました。

・**理事会の時間:** 現状通り、例会終了後の開催が出席しやすく妥当であるとの意見でまとまりました。

・**会員増強:** 具体的な候補者のお名前も挙がりましたが、入会に繋げるためには、候補者の情報をクラブ全体で共有し、組織的にアプローチしていく必要があるとの認識を共有しました。

・**例会運営:** 月に一度は、食事をしながらざくばらんに話し合える「交流例会」を設けてはどうかという提案がありました。これにより、会員同士の絆を深めると同時に、プログラム委員会の負担軽減にも繋がるのではないかと意見です。

・**奉仕活動:** 当クラブが過去に行ってきた様々な奉仕活動（ロータリー公園、桜の植樹、時計塔の寄贈など）を再認識し、次の活動に繋げる「奉仕活動遺跡巡り」のような企画も面白いのではないかとアイデアが出されました。



【第2班 報告】

第2班は、7名の参加を得て会合を行いました。議論の中心は、限られた資源を有効活用するための「選択と集中」でした。

・**事業の見直し:** 長年継続している理科研究支援事業を例に、その活動が現在も本当に求められているのか、費用対効果や会員のやりがいに繋がっているかなど、多角的に見直す必要があるとの意見が出されました。

・**活動の見える化:** 奉仕活動の成果をクラブや会員のSNSなどを通じて積極的に発信し、「見える化」していく必要があるのではないかと指摘がありました。

・**清掃活動:** 長山ロータリー公園の清掃活動は年2回に分けて負担を軽減する、その他の清掃活動にはクラブのベストを着用した会員が複数名で参加し、ロータリーの活動をアピールすべき、との具体的な提案がありました。

・**例会運営:** 月4回の例会に固執せず、回数を減らしてその分を親睦例会に充てるなど、メリハリのある運営を検討してはどうか。また、テーブルごとのグループ討議を活性化させるべきとの意見も出されました。



【第3班 報告】

第3班は、6名の会員で会合を持ち、特に会員拡大と今後の活動について話し合いました。

・**会員拡大:** 若い世代だけでなく、時間に比較的余裕のある65歳以上の方々をターゲットにするのも一つの手ではないか、という意見が出ました。一方で、年間30万円程度の会費負担は、入会の大きな障壁であるとの現実的な指摘もありました。

・**奉仕活動:** 寄付の依頼に応えるだけでなく、会員が自ら体を動かして奉仕することの重要性が強調されました。そのためにも会員増強が不可欠であるとの認識です。

・**国際交流:** 姉妹都市提携の可能性のあるモンタナ州ボーズマン市との交流を深め、子どもたちのホームステイを支援するなど、当クラブが国際交流の架け橋となる事業を展開できる可能性があるとの期待が語られました。

・**出席率の向上:** 低調気味な出席率を改善するため、会員皆でフォローし合い、出席しやすい環境を作ることが、クラブ活性化、ひいては会員拡大に繋がるのではないかと意見でまとまりました。



4つのテスト ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか